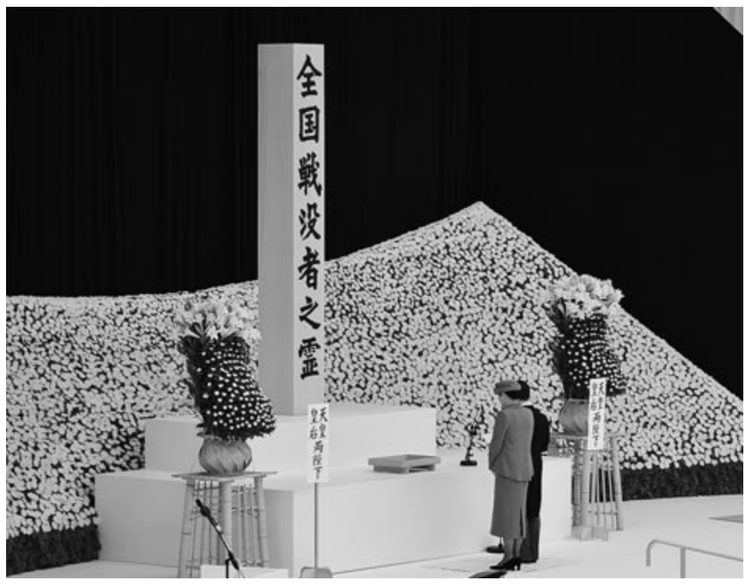
両陛下が追悼と平和の祈り

令和最初の全国戦没者追悼式

「悲しみ新たに、惨禍繰り返さず」

日本武道館

終戦後74年の令和元年8月15日、東京都千代田区の日本武道館で全国戦没者追悼式が開催された。天皇皇后両陛下が御臨席され、安倍晋三内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、各国務大臣、各都道府県代表、関係団体の代表ら合わせて約7000人が参列、約310万人の全戦没者に追悼の誠を捧げた。



おことばを述べられる天皇陛下

午前11時51分、開会が宣言され、全員が起立して両陛下を迎える。国歌斉唱に続き、安倍晋三内閣総理大臣が式辞。

「祖国の行く末を案じ、戦陣に散った方々。終戦後、遠い異郷の地にあって、亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、東京をはじめ各都市での爆撃、沖縄における地上戦などで、無残にも犠牲となられた方々。今、すべての御霊の御前にあって、御霊安かれと、心より、お祈り申し上げます。

今、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い犠牲の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れることはありません。改めて、衷心より、敬意と感謝の念を捧げます」

両陛下は標柱の前に進み深く一礼される。正午の時報に合わせ一分間の黙祷を捧げられた。両陛下に合わせ、参列者が同様に黙祷を捧げた。

天皇陛下がおことばを述べられた。

「本日、『戦没者を追悼し平和を祈念する日』に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来74年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、ここに過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

大島理森衆議院議長、山東昭子参議院議長、大谷直人最高裁判所長官の追悼の辞の後、昭和19年12月に東部ニューギニアのボイキンで戦死した、森本利夫陸軍伍長の子・森本浩吉氏が追悼の辞を述べた。

「国の安泰を願い、最愛の家族を故郷において、陸に海に空に国難に際し、散華されましたことを決して忘れることはありません。国内各都市の空襲、広島、長崎への原爆投下、沖縄戦において、多くの一般の人たちも、尊い犠牲になられました。残された我々は母の愛情と祖父母に育てられました。私たちは父の記憶、思い出さえない子供でした。今では散華された父の享年の2倍半を超す年齢になりましたが、父に対する思慕、追慕の気持ちが絶えることはありません。

今日、日本が世界に冠たる国となり、平和を享受しているのは、国難に殉じられた多くの犠牲によるものであることを決して忘れることはできません」

献花となり、安倍総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、日本遺族会会長、各都道府県遺族代表、一般戦災死没者遺族代表、原爆死没者遺族代表、青少年代表、衆議院副議長、参議院副議長、各国務大臣、各政党代表、各団体代表者が戦没者に黄色菊を捧げ、最後に根本匠厚生労働大臣が献花した。

第54回教誨師中央修練会

宗教の力が人を変える

東京都千代田区

東京都千代田区の法務省庁舎地下1棟大会議室で、全国教誨師連盟主催の第54回教誨師中央修練会が9月3日から5日にかけて開催された。

1日目は開会式及び教誨事業功労者表彰記念式典。同連盟の舎奈田経夫理事長（真言宗豊山派）が挨拶し、大谷光淳同連盟総裁の式辞が代読された。表彰に移り、法務大臣表彰、日本宗教連盟理事長表彰、全国教誨師連盟総裁表彰が行われ、被表彰者を代表し、名古屋拘置所属教誨師、日蓮宗の加藤遵幸氏が謝辞を述べた。

山下貴司法務大臣は「令和の時代に被収容者が人間性を取り戻し、社会に戻っていけるよう、皆様の一層のご活躍を願っている」と祝辞を述べ、岡本光央日本宗教連盟理事長、藤本哲也矯正協会会長の祝辞に続き、竹岡郁夫同連盟副会長が閉会のことばを述べた。

研修会では、最初に名執雅子法務省矯正局長が「矯正行政の現状と課題―教誨師に期待すること―」と題し基調講演した。

「平成15年に開かれた矯正へと大きく転換した。国民に理解され、支えられる刑務所への変革である。平成17年の刑事収容施設法の成立により、矯正施設を透明化し、改善指導を義務化した。平成28年には再犯防止推進法が成立し、再犯率が以前は20％を超えていたものが、今や16・7％になり、16％の当初の目標を達成できるところまできた。刑務官の勤務環境も改善され、高齢、障碍の被収容者には、保護観察所、地域性生活定着センター、福祉関係機関等との連携により、特別調整の福祉的支援をしている。就労支援により、刑務所にいながら出所前に就職が内定するようになった。マーガレット・アクションと名付け、女性活躍推進及び女子刑事施設等の運営改善に関する総合的な政策を打ち出した」

2日目午前は、「教誨師とは」の表題で、最初に川越少年刑務所の教誨師で真宗大谷派の嵩海史（かさみひろし）氏が講演。「教誨活動を通して私自身が大事なことを学んでいる。人間存在としては平等で、やりなおしのきかぬ人生だが、見直すことはできる」と述べた。次に府中刑務所の教誨師であるカトリックの油谷博之氏が講演し、「道徳的な話しかできないのでは、教誨師が宗教家である必要がないのではというジレンマがある。各施設にはそれぞれ事情があるので、柔軟に対応していきたい」と語った。

午後は、元法務省矯正局長で全国教誨師連盟理事の梶木壽氏が「教誨師に期待すること」と題し記念講演。「被収容者は良い経験や良い人との出会いが少なかった人たちで、社会環境が悪い場合もある。教誨師に出会って人生を見直し、澄んだ、平穏な心を取り戻すことができる。宗教の力、信仰の力が人間の根本に大きな影響を与える」と語った。

その後、テーマ「教誨師に願われていること」について、班別の討議が行われた。

3日目は、班別で討議された内容が発表された。閉会式では、舎奈田理事長から受講者代表の京都刑務所所属・カトリックの小川英子氏に修了証書が授与され、同連盟副理事長の高橋哲氏が閉会の言葉を述べた。

挨拶する舎奈田経夫全国教誨師連盟理事長＝9月3日、東京都千代田区の法務省庁舎大講堂

社説

勝田吉太郎氏の遺言

学生時代、熱に浮かされたようにドストエフスキーの作品を読んだ勝田吉太郎氏は、夫人に、半ば冗談、半ば真剣に、「死んだら棺桶の中に『カラマーゾフの兄弟』を入れてくれ」と言ったという。刑法学の瀧川幸辰のもと、ルス法典の研究で研究者の道を歩み始めながら、西田幾多郎の系譜である久松真一にも師事し、ロシア政治思想史で画期的な業績を上げた。

勝田氏が象牙の塔から時折抜け出し、政治・社会評論を手掛けるようになったのは、戦後日本が曲がり角を迎えた1970年代。自民党の一党支配体制がほころび、各地に革新首長が誕生し、共産党の唱える民主連合政権が現実味を帯びてきていた。そんな時代に、勝田氏は政治思想の深い視点から、神なき民主主義、ヒューマニズムの欺瞞を指摘し、人として国としての在り方を根本から問いかけていた。

国家を支える威厳的要素

勝田氏に呼応するかのように、梅原猛氏もドストエフスキーを取り上げながら、我々が目指す社会について論じていた。例えば、『カラマーゾフの兄弟』の3人兄弟、ドミートリイ、イワン、アリョーシャ（アレクセイ）は、それぞれ資本主義、共産主義、そして未来の社会を象徴しているとと。

ドミートリイは父フョードル以上に強欲で、イワンは懐疑主義者。イワンの「神がいないとすれば人は何をしても許される」との示唆で、異母兄弟のスメルジャコフは憎いフョードルを殺してしまう。ドストエフスキーは、神なき民主主義の典型である共産主義が、最終的にはニヒリズムや冷たい独裁国家をもたらすことを預言したのである。

インテリゲンチャを痛烈に批判したのである。革命によって生まれたソ連は、まさしく裏返しのツァーリズムで、資本主義以上の階層社会を築いた。そんな国に無邪気に憧れる日本の左翼を、勝田氏は論断したのである。

70年代後半には元号法制化が議論になり、1979年に元号法が成立した。左翼勢力は当然ながら反対で、それに対して勝田氏は、日本という国や民主主義の在り方や天皇の存在から元号の必要性を説いていた。

例えば、国家には実務的な要素のほかに威厳的な要素がなければならず、天皇制は目に見えないところで国家の威厳的な部分を表現していて、日本国民の大多数は、無意識のうちにしろ、そのように考えている、とした。イギリス風に言えば、「王冠を頂いた民主主義」（crowned democracy）である。

さらに、「人格の尊厳を真に支えるものは、万人のうちにひそむべき仏性とか神の似姿とかいった形而上的ないし宗教的理念でなければならない。…真の宗教信仰があってはじめて、人間は尊重されるに値するものとなるのであろう」とも言う。

また、エドマンド・バークを引きながら、真の民主主義は生きている者のためだけでなく、亡くなった人、これから生まれる人たちのためでもなければならないとした。御代替わりの本年、それを支える国民的な宗教信仰の象徴が天皇だと深く考えさせられた。

秋の大嘗祭に向けて

今では日本だけになった元号について付言すると、「明治は遠くなりにけり」「大正ロマン」「昭和歌謡」など、元号は日本人の歴史観の醸成に大きな力を発揮している。西暦だとそうはいかないだろう。

国民国家とは一つの物語を共有する人たちの集まりとも考えられる。例えば、明治初めの日本人は、それまで目にしなかった天皇が、軍服姿で騎乗する姿を見て、新しい国を実感したであろう。

勝田氏は、幕末維新と敗戦の危機を乗り越えられたのは、天皇の存在が大きいと力説する。そんな日本に生まれた奇跡に感謝しながら、秋の大嘗祭を迎えたい。

灯

「神の計画を知りうる者がいるでしょうか。主の御旨を悟りうる者がいるでしょうか。こうして地に住む人間の道はまっすぐにされ、人はあなたの望まれることを学ぶようになり、知恵によって救われたのです。」知恵の書9：13―18）

ユダヤの伝統は、人の生きる道も国々の行く末も、人間的な思考によって見出せるものではないと教える。救いの計画と平和のビジョンは人智を超えた造り主によって与えられるものだと言う。神によって新たにされた魂は、天のみ言と神の霊の働きによって、これを感得する。そして自由と幸福への道を誤りなく歩む。（1）

天地

福知山の友人宅に泊まった時、市内に土師神社があると聞き、訪ねてみた。土師氏は古代豪族の一つで、技術に長じ、古墳時代に出雲、吉備、河内、大和で古墳の造営や葬送儀礼にかかわっていた▼大阪府藤井寺市の道明寺天満宮の前身は土師神社で、土師氏氏寺の道明寺一帯は「土師の里」と呼ばれていた。その歴史から、道明寺天満宮では子供たちの埴輪づくりを行っている▼土師氏の祖・野見宿禰は天穂日命14世の孫で、菅原道真の遠祖にあたり、相撲の元祖としても知られる。『日本書紀』には次のような話がある。当麻蹶速が天下一の力持ちだとの噂を聞いた垂仁天皇が、出雲から野見宿禰を呼びよせて戦わせたところ見事に勝ったので、当麻蹶速の土地を与えられた▼また、皇后・日葉酢媛命が薨じた時、殉死者が多いのを天皇が哀しんでいると、野見宿禰が埴土で像を造り、殉死に代えることを進言し、出雲から人を呼んで土の人形や馬を作らせ、これを埴輪と呼んだという▼土師氏が源流で、平安時代初期の貴族・大江音人（おとんど）を始祖とする友人は、所有の山に野見宿禰と大江音人の顕彰神を建立していた。大江山を望む中山間地で、杉の山に朝霧がたなびく美しい里だが、イノシシにシカ、クマの被害に2メートルもフェンスを張って防衛していた▼天地子の里はイノシシだけの1メートル余のフェンス。田舎に暮らす楽しみと苦労を夜更けまで語り合った。

宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net

©宗教新聞社 2019

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税・郵送料を含む）

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周　訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂　定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421

人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋靈 著
四六判158頁 定価1,365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558 FAX042（754）1818

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
（定価：本体2000円＋税）
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して總向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305 FAX078（801）0006

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円（税込）
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp